

いつでもお出かけ日和

旬を引き寄せワッショイワッショイ! いつも繁盛

産直とよさか
げんき村

休日の朝が時々慌ただしくなる。野菜直売所情報が続々届き、直に見て食べてみなければ、と出かける機会が増えたのだ。どの直売所も新鮮な品を求めている人たちが賑わっている。

各地域ごと自慢の産物があるので下調べしておくと役に立つ。たまに頂戴したトマトの、格別な旨さに驚き購入先を聞くと、車で40分程の産直所「げんき村」で販売のトマトだと教えてくれた。評判の高い農家のトマトで、最盛期には開店(午前8時)前、すでに大行列で、短時間で完売するという。

どうして何回か行ったか、目当てのトマトは小さな袋入りと2つ手に入れただけで、おいしい時期は過ぎた。枝豆と言えば、黒崎産が有名だが、今夏はげんき村のもをよよく食べた。棚には10軒ほどの農家のものが試食できるように並べられていて、味比べすると旨みの差がわかり、おいしい枝豆が勢よく売れていく。サクランボもおいしかったな。

新潟市内だけでも直売所は相当数あるが、トマトシーズンに知った「げんき村」は活気かみり大繁盛。人々を引き寄せている。

7月下旬、新発田(しはた)市に産直場の他、農家レストラン、甘藷、パン屋などが集合の「月岡わくわくファーム」がオープンしたそうだ。食欲の秋間近か、日帰り温泉の途中寄ってみようかしら。



営業時間 午前8時～午後7時
年中無休 駐車場30台
TEL 025-384-5008

読者ブログ紹介

http://hikarataro.exblog.jp/

新潟の昔の風景や友人の宝箱から見つかるのでは、と思える程資料を保存している。古時計が趣味と思っていたが、ひまわり、ヤバ猪口、ポスター、絵葉書、その他が見飽きることはない。

蔵書票の魅力も知ることができた。新潟とよさか愛する活動にいつも陰ながら応援している。

「にいがた文明開化ハイカラ館」へ、どうぞ。クリックよろしくね。

東条上野の鈴木本で、生の田舎落語に魅了されて以来、機会があれば鈴木本に落語「上方落語十八番」を聴きたいと願っています。桂米二さんの新聞コラムをまとめたもの。知っている落語はほとんどだが、軽妙な文章で内輪話も楽しくトントン読みやすい。この本で落語のオチを上方落語でサゲとサゲと知ることができた。



著者 桂米二
発行 日経新聞出版社
2010年5月初版
価格 ¥870+税

いいなこの本



人も虫も
水遊び



ビールが空になる〜!
味噌をつけてキウイもポリッ。 トマトパスタ



蝶が水飲み。
しばらくの間、ひらひら舞っては水遊びを楽しんでいた。駐泊所竹林と空、そして虫の陰が美しく水に映っている。

冷たい水も何のその。

水風船 びりびりやうかばみ!

猛暑続きの夏、診療所の駐車場は時折蝶やセキレイ、トンボ等の水飲み場になった。
消雪ホースから流れ出る水が浅い池を出現させ、どこからともなく虫や鳥が下りてきて夢中で水飲みや水遊びを始める。カエルの声も響く。迷わず水遊びも楽しい。こんな光景に、日頃の疲れを忘れさせる程いやされた。
二人の孫も水トンネルに大はしゃぎ。
休珍日、親しい仲間を誘いビールパーティを催した。
枝豆、キウイ、トマト、筆シウガ、ゼンマイの巻付け、巻入りに黒崎茶豆、イカの一夜干し、ゴヤの天ぷらと健康食材料満載の嬉しい。45日にオカリナも参加し、夕方五時から始まったパーティは、花火で終了。四時間以上の宴会は笑いとおしゃべりにあふれて散会となった。来年も又楽しみたい。

夏休みにはやってくる七歳の孫の為に購入した天体望遠鏡は、すっきりしない天気続きで活躍の場がなかった。張り切った準備をしたゾウジ型は内心ガッカリしていたことだろう。
望遠鏡で見える月はデコボコで、球体がクッキリ見えてくる。
受けるばかりの月に、人が住む日がいずれやってくるのか。
青く輝く地球もこの目で眺めたいものだが...

月のつぶやき